

「岡山いきいき子ども・若者プラン 2025」（仮称）について

1 現状認識

- ・「岡山いきいき子どもプラン2020」に基づき、少子化対策、子育て支援に取り組んできたが、出生数は13年連続で減少するなど、少子化の現状は依然として厳しい状況が続いている。
- ・令和5（2023）年度の県民意識調査では、未婚者の8割以上が結婚の希望や意向を持っているものの、3割を超える人が「結婚できそうにない」としている。また、希望する子どもの数に対して実際に持てると思う子どもの数が下回っており、結婚や出産について、希望と現実のギャップが生じている。
- ・結婚や出産は、個人の考え方、価値観、個人の自由な選択が尊重されるものであることを前提として、県や市町村、NPO、企業をはじめとする様々な主体が連携し、県民の結婚の希望を後押しし、安心して妊娠・出産ができる社会環境づくりに取り組んでいく必要がある。
- ・核家族化の進行や共働き世帯の増加、働き方の多様化、地域社会のつながりの希薄化など子育てをめぐる環境が大きく変化する中、親のみによる「孤立した育児」が課題となっており、子育ての問題を社会全体のものとしてとらえ、子育て家庭を支援し、子育ては楽しいと思える環境を整えることが求められている。
- ・「将来の夢や目標を持っている児童生徒」の割合は、小学生では約6割、中学生では約4割であり、子ども・若者が夢や目標、自信を十分に持てていない現状がうかがえる。
- ・本格的な人口減少社会の到来、デジタル技術やグローバル化の進展など、子ども・若者を取り巻く環境が大きく変化しており、将来を予測することが困難な時代を前に、社会の変化に対応し生きる力を培っていくことが求められている。
- ・困難な状況にある子ども・若者の問題は、いじめや不登校、ニートやひきこもり、貧困、虐待、ヤングケアラー、インターネット上の誹謗中傷、SNSに起因する犯罪被害など、多岐にわたり、一人が複数の問題を抱えるなど、多様化・複合化する状況となっている。

2 施策の方向性

少子化の流れに歯止めをかけ、次代を担う子ども・若者の健やかな成長と自立・活躍に向けて、子どもを生みたい、育てたいと考える個人の希望をかなえとともに、子ども・若者が尊厳を重んぜられ、自らの希望に応じてその意欲と能力を活かすことができるよう、

- ① 結婚、妊娠・出産の希望がかなう環境の整備
- ② 乳幼児期における教育・保育の充実
- ③ 子ども・若者の成長を支援する環境の充実
- ④ きめ細かなサポートが必要な子ども・若者や家庭への支援
- ⑤ ワーク・ライフ・バランスと子育てにやさしい環境づくりの推進
- ⑥ 子ども・若者の社会参画・意見の反映

など、ライフステージに沿った様々な施策を切れ目なく展開する。

3 子ども・若者の社会参画・意見の反映

「岡山いきいき子ども・若者プラン 2025」（仮称）の策定にあたり、小学生・中学生・高校生段階の児童生徒を対象としたアンケート（小学生・中学生向けの次期プラン説明資料を作成）の実施や、子ども・若者支援地域協議会等を通じて子ども・若者の意見を聴取し、次期プランへの反映を検討する。

4 計画の性格・位置付け

- 中期的な視点から、次代の社会を担う子どもたちが健やかに生まれ育つ環境の整備を総合的・計画的に推進するための基本的な計画
 - ・ 県こども計画 (こども基本法)
 - ・ 県子ども・若者育成支援計画 (子ども・若者育成支援推進法)
 - ・ 県子どもの貧困対策計画 (こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律)
 - ・ 県子ども・子育て支援事業支援計画 (子ども・子育て支援法)
 - ・ 次世代育成支援対策のための県行動計画 (次世代育成支援対策推進法)
 - ・ 自立促進計画 (母子及び父子並びに寡婦福祉法)

5 計画期間

令和7(2025)年度から令和11(2029)年度までの5年間

6 基本理念（案）

「岡山いきいき子どもプラン 2020」と「第3次岡山県子ども・若者育成支援計画」の基本理念を融合

－ すべての子ども・若者が「おかやまに生まれ、育ち、本当に良かった」と思い、笑顔で暮らせる未来に向けて －

7 スケジュール

令和6年9月	第2回子ども・子育て会議（計画素案） 第2回青少年問題協議会（ 〃 ）
令和6年11月	第3回子ども・子育て会議（ 〃 ） 第3回青少年問題協議会（ 〃 ）
令和6年12月頃	パブリックコメントの実施 小・中・高校生段階の児童生徒対象アンケートの実施
令和7年2月	第4回子ども・子育て会議（計画案） 第4回青少年問題協議会（ 〃 ）
3月	「岡山いきいき子ども・若者プラン 2025」（仮称）策定

8 重点施策等、次期プラン構成（案）

別紙のとおり